

## ミズナの不耕起連続栽培

ミズナの周年栽培では、作付けごとに施肥、耕起、畝立てを行うため、作付け終了から次作の作付けまで少し期間があき、効率化のうえで改善の余地があります。また、株が大きくなり地面を覆うまでは、除草に労力を要するため、省力化が求められています。

そこで、太陽熱消毒後に不耕起連続栽培を行い、栽培管理作業の効率化と省力化を検討しています。昨年度は、不耕起栽培により雑草を抑制することができ、耕起区と比べて生育に顕著な差がないことがわかりました。しかし、土壌表面が固くなり、播種機の利用が難しいなど新たな問題点も生じたため、播種方法など、安定生産技術の開発に向けて検討しています。



耕起区



不耕起区

不耕起連続栽培の生育状況  
(播種：9月14日、撮影：10月5日)